

「百人一步」通信

「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう

今井和夫とともに歩む

「百人一步の会」

代表 今井和夫

〒671-3211

兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065

090-9610-2511

hyakunin-ippo@imaifarm.jp

宍粟北部ではようやく雪から地面が見え始めたところも多いのではないのでしょうか。でも、家の北側などはまだまだ屋根から落ちた雪が岩のように固まっていることでしょう。しかし、風は少しずつ春を感じさせてくれるようになってきました。種まきでそわそわする季節になりましたね。

先日、波賀町北部に行きました。最北部の道谷地区ではまだ屋根に40~50cmの雪、消防団の方々が消火栓の回りの雪をのけておられました。聞けば、道谷の消防の定年は60才とか。でも、若い方もしっかりとおられ、過疎に負けないぞという気迫を感じさせて頂きました。

前回の『百人一步』通信(3月1日新聞折込)、突然の折り込みにもかかわらず、多くの方にお読みいただき、また、熱い感想もたくさん頂き、本当にありがとうございました。今回は、今の私の思いを少しばかり書かせて頂きます。

皆さんの意見を聞かせてください

まず、町が元気になるのに一番大切なのは、一人一人の皆さんがその気になって動き出すということだと思います。

皆さん、いろんなところで頑張っておられます。また、このままではいかなあつと悶々とされている方も多いと思います。

そんないろんな思いを少しずつでも形にしていき、表に出して、情報交換・意見交換しましょう。表に出せば意識も高まり、また元気も出てくると思います。

そのために、私もできる限りいろんなところにお伺いさせて頂き意見を聞かせて頂きたいと思っています。

また、そんな意見交換の場にこの『百人一步通信』がなればと願っています。

若い人の声もいっぱい載せたい。子育てママの悩みも、おばさま方の元気も、お年寄りの人生の知恵も。

『一人の百歩より百人の一步』の一つの意味は、一人で百歩頑張るよりも、百人で一歩ずつ頑張ろう、つまり、みんなで少しずついいから、動きだそうということです。

どんなにすごい「市政の達人」を外から呼んでくるよりも、私達一人一人がその気になって、みんながつながり、少しずつでも動き出すことの方が、はるかにしっかりと根を張った本当の町づくりができるのではと思います。

地域を少しばかり回ってみて

今回、少し地域を回っただけですが、いろんなところで頑張っておられる人がたくさんいるのを知って驚いています。

「農業頑張りましょう!!」そう言って向こうから近づ

いて来てくれる若者。聞けば2haの田んぼを作っていると。そんな若い人がいるなんて知りませんでした。感激です。

また、誰もがこのままではいかな、何とかしなければ、という思いを持っておられるのをひしひしと感じました。

一番多かったのは

「あと10年たてばもう空き家だらけだ。田んぼも荒れる。困ったことだ?」「奥はどんどん寂れていく?」でした。

私も、それが一番の課題だと思っています。今回地域を回らせて頂いて、すでに空き家が多いのにあらためて驚きました。

町村合併の時の懸念がまさに現実のものとなってきています。これについては、本当に皆さんのご意見をお聞きしたいです。

田んぼが荒れてしまったらもう人が住めないところになってしまいます。何としても田んぼは守りたい。田んぼがあるというのが、この地域が成り立つ根本条件であり、田んぼを守ることが社会的に意味があるから公的な助成も要求できます。田んぼを放棄してしまったらこの地域を守るべき大きな意味がなくなってしまう。

国の食料自給の方針が過疎を左右する

少し大きなことを書いてしまいましたが、

食料を自給することは国として一番基本中の基本のことだと思うのです。食べ物を外国に依存しては、何も言いたいことが言えません。というか、依存している相手の国の言いなりにならざるを得ません。



手作りの鶏舎